



松原田中遺跡



南方向からみた松原田中遺跡

◎ 松原田中遺跡の概要 ◎

松原田中遺跡は、鳥取市郊外に広がる湖山池の南西部に位置する、弥生時代前期から古墳時代後期（約 2,300～1,400 年前）の集落を中心とする遺跡です。一般国道 9 号（鳥取西道路）の改築工事に伴い、平成 22 年度から調査が行われ、今回が調査の最終年度、4 回目の調査です。

これまでの調査で、微高地上に居住域が、その西側の低地に水田域が広がることが明らかとなっています。また加工途中の木製の鍬や、石器や管玉づくりの際に生じた破片や未成品が出土したことから、弥生時代にはものづくりが盛んであったことがわかりました。

管玉の素材となる碧玉の一部は、分析の結果、石川県小松市周辺で産出されるものであることがわかりま

した。さらには、銅剣を模した磨製石剣、銅鐸（共に破片）等の近畿地方との関連が窺える遺物や、岡山県に多い分銅形土製品が出土する等、他地域との交流を示すものが沢山出土しています。

古墳時代後期（6 世紀代）には、遺跡の東側にある丘陵上に松原古墳群が築かれます。そこで使用された埴輪と当遺跡から出土した埴輪の特徴が共通することから、松原田中遺跡は松原古墳群を造営した人々の村と考えられます。

古代は遺構・遺物が希薄となりますが、中世（13 世紀）以降、現代に至るまで耕地として利用されてい

今年度調査の成果

今年度の調査では、古墳時代前期頃の遺構が非常に密な状態で検出されました。

盛土 5 区の調査では、盛土 1 区から北方向にのびる溝を境に、東側に集落が展開しており、特に盛土 5 区の北東側から盛土 3 区の北西側にかけて、布掘建物や掘立柱建物が集中していることがわかりました。

これまでの調査で見つかった掘立柱建物は 24 棟で、うち 13 棟は溝を掘り、溝の内部に柱を立てる布掘建物であることがわかりました。

盛土 5 区の布掘建物 7、盛土 3 区の布掘建物 11 では、柱が建物の基礎である地中梁に据えられた状態で見つかりました。柱を伴う状態での出土は珍

く、新潟県佐渡市蔵王遺跡について国内で 2 遺跡目となる貴重な発見です。

また、盛土 3 区の北東側では、東西約 13m×南北約 3m に及び矢板列が見つかりました。調査の結果矢板より南側は石を詰めたり、盛土を施していることがわかりました。このことから、集落の北東部を一部埋め立てて、居住域を広げた可能性があります。

今年度の調査成果により、松原田中遺跡の集落の北辺部の様子が明らかになりました。湖山池の南岸域における古墳時代の村の様子を知る上で貴重な発見です。



布掘建物について

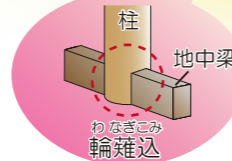
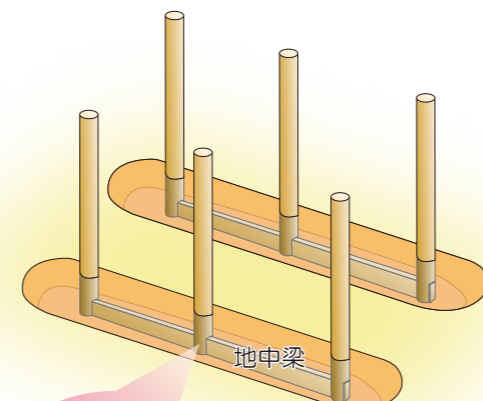
布掘建物とは、掘立柱建物の一種で、平行する二条の溝を掘り、溝の内部に柱を立てるものを指します。溝の中にそのまま柱を立てるタイプ、溝の中にさらに柱穴を掘るタイプ、溝を掘った後一端埋め戻してから柱穴を掘るタイプがあります。

地中梁とは、建物の基礎をつくる方法のひとつで、溝の底に置いた長い木材に、根本に貫穴を作った柱を組み合わせ、輪雑込状にして固定したものです。低湿地などの軟弱な地盤では、建物の不同沈下を防ぐ効果があります。

松原田中遺跡では、これまでの調査で地中梁を伴う布掘建物が 13 棟以上見つかっています。いずれも出土した土器から古墳時代前期と考えられます。



盛土 5 区布掘建物 7

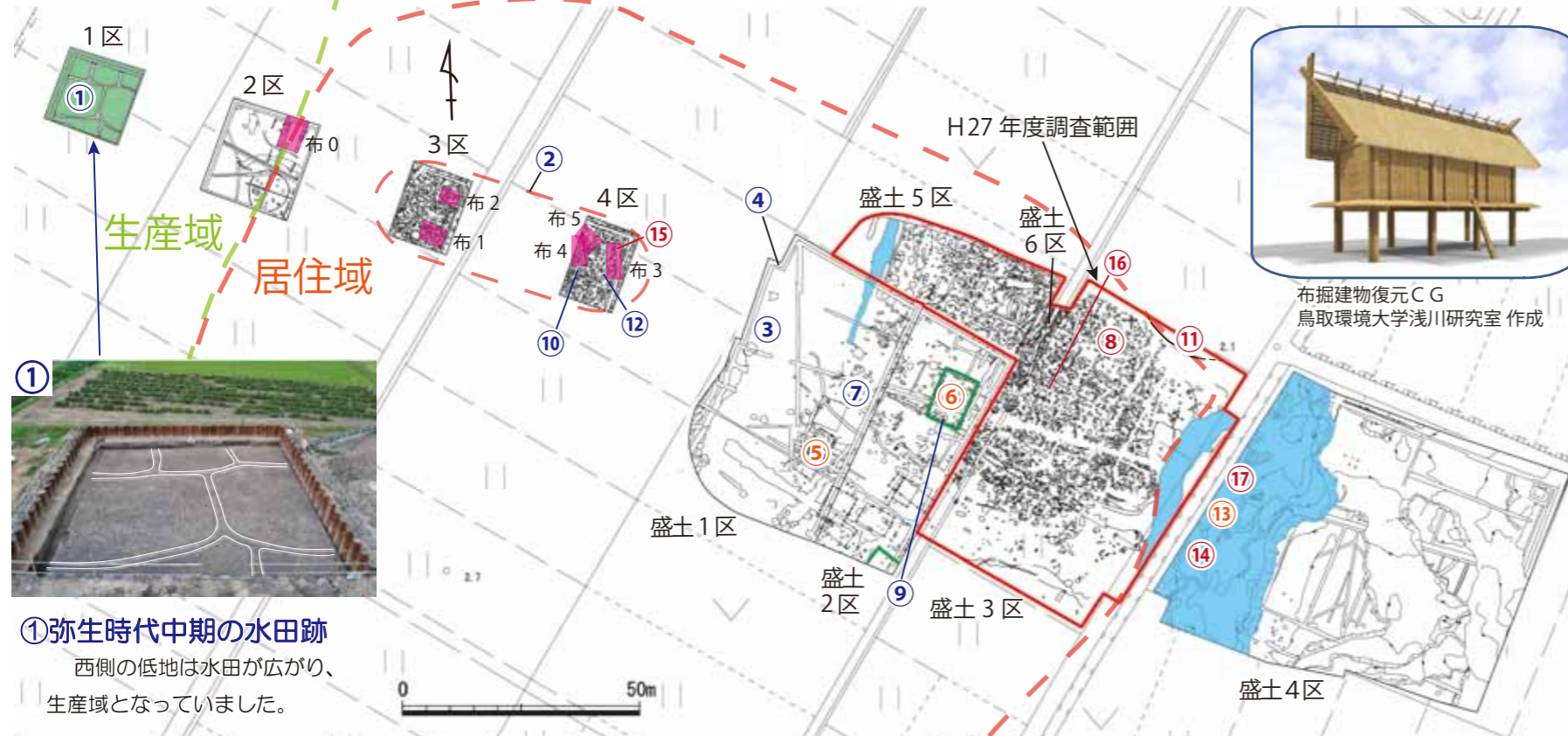
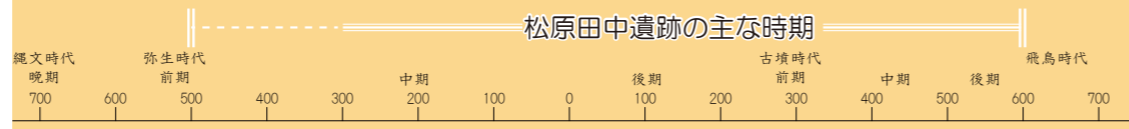


布掘建物模式図



発行：公益財団法人鳥取県教育文化財団 調査室
発行年月日：平成 27 年 11 月 7 日 (土)
〒680-1133 鳥取市源太 12 番地
電話 0857-51-7553
ファクシミリ 0857-51-7550
電子メール tottori-kyobun@kyobun.sakuratan.com
URL <http://kyo-bun.sakura.ne.jp/chosasisu%20new.htm>

松原田中遺跡 北辺部の様子



①弥生時代中期の水田跡
西側の低地は水田が広がり、生産域となっていました。

ものづくりがさかんな弥生時代の村

管玉や石器、木製高杯等の製作途中のものなどが出土したことから、さまざまなものづくりが盛んに行われていたことがわかりました。

- ②管玉未成品や工具 (弥生時代中期)**
- ③石器未成品 (弥生時代)**
- ④高杯未成品 (弥生時代前~中期)**

建物が立ち並んでいた古墳時代後期の村

- ⑤掘立柱建物**
これまでに古墳時代後期(約1,400年前)の建物跡が約10棟見つかりました。
- ⑥古墳時代後期の大壁建物?**
四辺の溝から柱材が出土しており、11.4×8.2mの大型の壁立式の建物と考えられます。

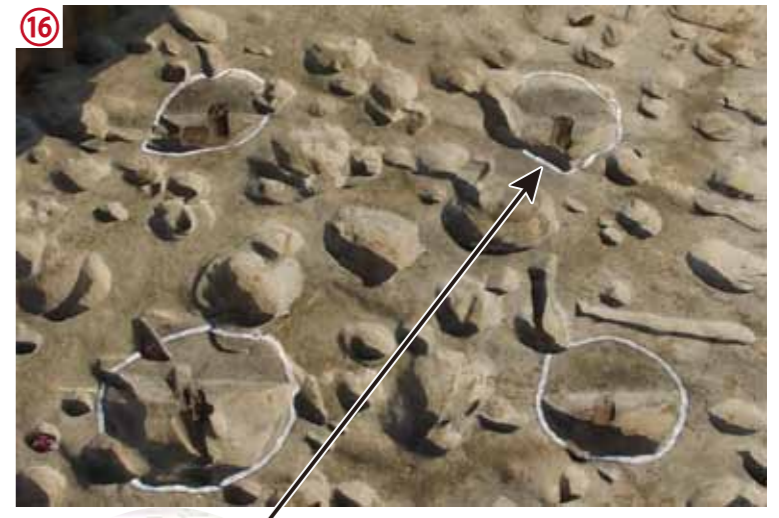
さまざまな出土遺物

- ⑦銅鐸の破片(内面)**
盛土1区からは銅鐸の破片が2点、3区からは銅製の腕輪である銅釧の破片が1点出土しています。
- ⑧小型の青銅鏡**
同心円が二重に廻ることから、重圏文鏡と呼ばれる古墳時代前期(約1700年前)の国産鏡と考えられます。直径約5.3cmです。
- ⑨ガラス勾玉 (弥生時代)**
- ⑩分銅型土製品 (弥生時代)**
- ⑪木製の盾**
- ⑫銅剣を模した石の剣 (弥生時代)**
- ⑬大足 (古墳時代後期)**
足に装着して水田に緑肥を踏み込む農具で、同類のものが近代まで使用されていました。
- ⑭腰掛の脚部 (古墳時代前期)**

古墳時代前期の村の様子



⑮地中梁を伴う布掘建物跡
地中に太い角材を据え、その上に柱を立てた古墳時代前期(約1700年前)の建物です。堅牢な造りから、高床倉庫と考えられます。



⑯大型掘立柱建物
盛土3区で検出した掘立柱建物22は、一辺4m、1間四方の大型掘立柱建物です。また直径20cmの柱が立った状態で出土しました。
柱の下端には挟り込みを入れ、柱穴の底の横材にはめ込んでいます。これは、柱の沈下防止のためと考えられ、布掘建物と共通する工法です。
出土した土器からみて、布掘建物群と同じ古墳時代前期のものと考えられます。



⑰集落のゴミ捨て場
破損した木製品や土器が多量に川に廃棄されていました。

